

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
 (令和8年6月解析分)

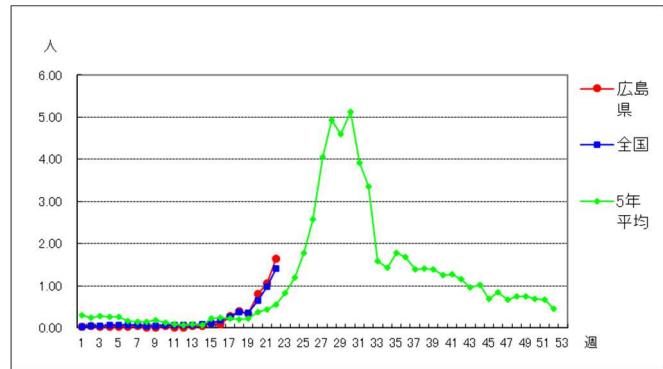
1 今月のトピックス

6月4日(木)に「手足口病警報」を発令しました!

■ 県内の発生状況

手足口病は、乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られるウイルス性の感染症です。免疫のない大人も子どもから感染することがあります。予後は良好な疾患とされていますが、まれに急性脳炎を生ずることもあります。

第22週(5月25日～5月31日)の福山市保健所管内において、定点医療機関からの報告患者数が警報開始基準値(定点当たり5)を上回ったため、6月4日(木)に、警報を発令しました。



全国的にも増加傾向にあり、今後しばらくの期間は流行が継続すると考えます。また、国内における手足口病流行のピークは夏季ですが、秋から冬にかけても多少の発生がみられますので、注意してください。

■ 手足口病について

病原体	コクサッキーウイルスA16型、エンテロウイルス71型など
症状等	<ul style="list-style-type: none"> 3～5日の潜伏期を経て、口の中、手のひら、足の裏などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。 通常、発熱は比較的軽く、高熱が続くことはありません。 ただし、まれに髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を伴うことがあるため、高熱、頭痛、嘔吐などの症状が見られた場合には、早めに、かかりつけ医を受診してください。
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 飛沫感染、接触感染、経口感染 (患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによる飛沫感染や、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入る接触感染、経口感染があります) 症状が治まった患者からも2週間から4週間にわたり便の中にウイルスが排泄されます。
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いの励行が基本となります。 特に、おむつ交換をするときには、排泄物を適切に処理し、しっかり手洗いをしてください。 タオルの共用は避けましょう。 有効なワクチンはありません。



🔍 広島県 手足口病警報 🔍 検索

広島県感染症・疾病管理センター
 (ひろしまCDC) ホームページ
 「手足口病警報」を発令しています

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和8年5月分(令和8年5月4日~令和8年5月31日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	14,003	37.64	-	↘	11	突発性発しん	45	0.20	0.28	→
2	インフルエンザ ※3	26	0.07	0.58	↓	12	ヘルパンギーナ	107	0.48	0.16	↑
3	新型コロナウイルス感染症(covid-19) ※1	234	0.63	-	→	13	流行性耳下腺炎	3	0.01	0.04	
4	RSウイルス感染症	51	0.23	1.15	↓	14	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
5	咽頭結膜熱	102	0.46	0.62	↗	15	流行性角結膜炎	32	0.42	0.63	→
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	540	2.41	1.82	↘	16	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	感染性胃腸炎	906	4.04	5.23	→	17	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
8	水痘	47	0.21	0.11	↘	18	マイコプラズマ肺炎	17	0.21	0.12	→
9	手足口病	215	0.96	0.40	↑	19	クラミジア肺炎 ※4	1	0.01	0.00	
10	伝染性紅斑	33	0.15	0.24	↑	20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.07	

※1 R5年第19週(5/8~)から五類に変更。※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性の症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2~6及び12)を含む) ※3 鳥インフルエンザを除く ※4 オウム病を除く

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和8年5月分(5月1日~5月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
21	性器クラミジア感染症	55	2.50	2.88	↘	24	淋菌感染症	18	0.82	1.32	↘
22	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.68	0.88	↘	25	メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	75	3.75	3.25	→
23	尖圭コンジローマ	16	0.73	0.78	↗	26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0.05	0.10	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※「薬剤耐性緑膿菌感染症」は、2026.4.6から「多剤耐性緑膿菌感染症」に名称変更され、また、全数報告に変更されましたので5月からは月報対象外になりました。

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患	手足口病	(0.22 → 0.96)
	伝染性紅斑	(0.06 → 0.15)
	ヘルパンギーナ	(0.20 → 0.48)
○急減疾患	インフルエンザ	(0.87 → 0.07)
	RSウイルス感染症	(0.48 → 0.23)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5~2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象20疾患、月報対象6疾患)について、県内154の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1、2、3	1~13	14、15	21~24	16~20、25~27	
定点数	37	56	19	22	20	154

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	34	結核(34)〔西部保健所(2)、西部東保健所(2)、東部保健所(8)、北部保健所(2)、広島市保健所(11)、呉市保健所(2)、福山市保健所(7)〕
三類	8	腸管出血性大腸菌感染症(8)〔西部保健所(2)、西部東保健所(1)、東部保健所(2)、広島市保健所(1)、呉市保健所(1)、福山市保健所(1)〕
四類	21	レジオネラ症(9)〔西部保健所(1)、西部東保健所(1)、東部保健所(3)、広島市保健所(3)、呉市保健所(1)〕 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)(2)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 日本紅斑熱(10)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)、呉市保健所(4)、福山市保健所(4)〕
五類	43	アメーバ赤痢(2)〔西部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 ウイルス性肝炎(2)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(1)〕 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(2)〔西部東保健所(1)、福山市保健所(1)〕 ジアルジア症(1)〔福山市保健所(1)〕 バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔福山市保健所(1)〕 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(1)〔広島市保健所(1)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(3)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)、呉市保健所(1)〕 水痘(入院例)(2)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 梅毒(18)〔西部保健所(1)、広島市保健所(14)、福山市保健所(3)〕 百日咳(10)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(5)、福山市保健所(4)〕

一類・二類・三類・四類・五類(全数把握対象)感染症発生状況 (広島県)

2026年6月30日 現在

分類	感染症名	発 生 件 数												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
二類	結核	25	41	31	40	34								171
	小 計	25	41	31	40	34	0	0	0	0	0	0	0	171
三類	コレラ	0	0	0	0	0								0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0								0
	腸管出血性大腸菌感染症	17	6	5	14	8								50
	腸チフス	0	0	0	0	0								0
	パラチフス	0	0	0	0	0								0
小 計	17	6	5	14	8	0	0	0	0	0	0	0	50	
四類	E型肝炎	1	0	1	3	0								5
	A型肝炎	1	0	0	0	0								1
	エムボックス	0	0	0	0	0								0
	つつが虫病	0	0	0	0	0								0
	デング熱	0	0	0	0	0								0
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	2								2
	日本紅斑熱	0	0	0	2	10								12
	日本脳炎	0	0	0	0	0								0
	マラリア	0	0	0	0	0								0
	レジオネラ症	6	1	5	5	9								26
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0								0
小 計	8	1	6	10	21	0	0	0	0	0	0	0	46	
五類全数	アメーバ赤痢	1	2	1	0	2								6
	ウイルス性肝炎(A型及びE型を除く。)	0	0	1	2	2								5
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	7	3	1	2								13
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0								0
	急性脳炎	0	2	2	1	0								5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	1	0								1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	2	2	3	1								11
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	1	1								3
	ジアルジア症	0	0	0	0	1								1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0								0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0								0
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	4	7	3	3								20
	水痘(入院例)	0	0	0	1	2								3
	破傷風	2	1	0	0	0								3
	梅毒	10	12	18	16	18								74
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	1	1								2
	百日咳	23	19	9	14	10								75
	風しん	0	0	0	0	0								0
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	1	0								1
	麻しん	1	0	0	0	0								1
小 計	44	49	43	45	43	0	0	0	0	0	0	0	224	
合 計	94	97	85	109	106	0	0	0	0	0	0	0	491	

※ 一類～三類感染症は、疑似症患者及び無症状病原体保有者を含む。

※ 「薬剤耐性緑膿菌感染症」が2026年4月6日から「多剤耐性緑膿菌感染症」に名称変更され全数報告となりました。

【類別感染症名】

- 一類： エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱
- 二類： 急性灰白髄炎(ポリオ)、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)
- 三類： コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス
- 四類： E型肝炎、ウエストナイル熱、A型肝炎、エキノコックス症、エムボックス(サル痘)、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9)を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱
- 五類全数： アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、急性弛緩性麻痺、急性脳炎、クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例に限る)、先天性風しん症候群、多剤耐性緑膿菌感染症、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症

病原体（ウイルス）検出状況（県立総合技術研究所保健環境センター検査分）

検体採取期間：令和8年5月1日～6月19日

1 県内医療機関からの受付検体数

患者数	検体数	陽性検体数	陰性検体数	検査中
159	194	102	89	3

2 四類感染症からの検出状況

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
ダニ類媒介感染症疑い	日本紅斑熱リケッチア	1	2	血液, 皮膚組織	R8. 6月	70代	呉市
つつが虫病疑い	日本紅斑熱リケッチア	1	1	血液	R8. 5月	70代	福山市
日本紅斑熱疑い	日本紅斑熱リケッチア	11	15	血液, 痂皮, 皮膚組織, 皮膚病巣拭い液	R8. 5月～6月	70代～80代	東部, 東部(福山), 呉市, 福山市
重症熱性血小板減少症候群(SFTS) 疑い	SFTSウイルス	1	1	血液	R8. 5月	80代	東部

3 五類感染症 急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの検出状況（別紙）

4 五類感染症からの検出状況（急性呼吸器感染症(ARI)として提出された検体の中に含まれていた患者の検査結果の再掲を含む）

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	6	6	鼻咽頭, 咽頭	R8. 5月～6月	1～14	西部東, 東部
	新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)+RSウイルスA型 +アデノウイルスNT	1	1	咽頭	R8. 6月	1	東部
手足口病	エンテロウイルスNT	2	2	咽頭	R8. 6月	2, 4	東部
	ライノウイルス/エンテロウイルス(鑑別予定)	2	2	咽頭	R8. 6月	3, 5	東部
	コクサッキーウイルスA6型 *	2	2	咽頭	R8. 5月	1	東部
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA6型 *	1	1	咽頭	R8. 5月	1	東部
インフルエンザ	B型(ビクトリア系統)インフルエンザウイルス	1	1	咽頭	R8. 5月	40	東部
咽頭結膜熱	アデノウイルスNT	2	2	咽頭	R8. 5月	1, 4	西部東
感染性胃腸炎	ノロウイルスGII. 3[P12]	1	1	便	R8. 5月	2	西部東

※ 5月下旬の検体から検出された。

◆年間を通じた県内のウイルス検出情報（ひろしまCDCホームページ内 月別・疾患別ウイルス検出情報）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hidsc-virus-kensyutsu.html>

◆広島県内の急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの流行状況（ひろしまCDCホームページ内）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/ari.html>

5 保健所別検査依頼受付状況 (検体採取期間：令和8年5月1日～6月19日)

保健所地区	検体数	疾患名 (検体数)
西部	3	ダニ類媒介感染症疑い(3)
西部(広島)	16	急性呼吸器感染症(ARI)(16)
西部(呉)	0	
西部東	34	ダニ類媒介感染症疑い(1), 麻しん(小児)疑い(3), 急性呼吸器感染症(ARI)(28), 感染性胃腸炎(2)
東部	77	ダニ類媒介感染症疑い(20), 麻しん(成人)疑い(6), 急性脳炎・脳症(5), 急性呼吸器感染症(ARI)(38), 新型コロナウイルス感染症(5), 手足口病(2), ヘルパンギーナ(1)
東部(福山)	29	ダニ類媒介感染症疑い(5), 麻しん(小児)疑い(3), 急性呼吸器感染症(ARI)(21)
北部	2	ダニ類媒介感染症疑い(2)
福山市	19	ダニ類媒介感染症疑い(18), その他(肺炎)(1)
呉市	14	E型肝炎(1), ダニ類媒介感染症疑い(8), 麻しん(成人)疑い(5)

急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスで検出されたウイルス（令和8年5月上旬～令和8年6月中旬）

	報告週	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	計
		5/4～5/10	5/11～5/17	5/18～5/24	5/25～5/31	6/1～6/7	6/8～6/14	6/15～6/16	
検査患者数		10	18	17	18	14	17	7	101
陽性患者数		6	13	11	16	11	10	7	74
AH1pdm09型インフルエンザウイルス									0
AH3型インフルエンザウイルス									0
B型インフルエンザウイルス(ヒ [○] 外 [○] 系統)				1					1
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)				1		2	1		4
RSウイルス A型								1	1
RSウイルス B型									0
パラインフルエンザウイルス1型				1	4		1	1	7
パラインフルエンザウイルス2型									0
パラインフルエンザウイルス3型			1	2	2	2			7
パラインフルエンザウイルス4型									0
ライノウイルス/エンテロウイルス							1	4	5
ライノウイルス		3	9	4	5	4	1		26
エンテロウイルスNT						1	1		2
コクサッキーウイルスA6型		1			1	1			3
メタニューモウイルス		2	2	1	6	2	5	1	19
アデノウイルスNT		1		1	2	1			5
ヒトコロナウイルスHKU1									0
ヒトコロナウイルスNL63			1						1
ヒトコロナウイルス229E									0
ヒトコロナウイルスOC43				1					1
ヒトヘルペスウイルス6型					1				1

※ 1人の患者から複数のウイルスが検出された症例が複数あります。